

川根の桜を守り、仲間と共に新たな生きがいを得る――

春になると、市内外から見物客が訪れる川根町家山の桜トンネルや緑地公園。地域の桜(ソメイヨシノ)を守るため、藁科さんをはじめとした「川根のソメイヨシノを守る会」の皆さんは、毎年秋から春にかけて、桜を守る活動を行っています。

【第二の人生の幕開け】

川根のソメイヨシノを守る会の活動を始めて今年で6年目を迎える藁科さん。志を持った当時を振り返ります。

「家山で生まれ育ち、定年までは名古屋でサラリーマンとして働きました。現役時代は街にいたことで、自然豊かな地元への郷土愛がより強くなったように思います。退職後に地元に戻ると、

桜の木の老齢化や枯れが目立ち、手入れがされていないことに気付きました。

自分が子どもの頃には、ひな人形を飾る時期と桜の開花が重なっていた楽

しい思い出があります。子どもの時に親しんだ自然を守りたいと思い、平成30年7月に会を立ち上げました」

【地元の名所を守りたい】

「初期メンバーは3人で『若

た。川根にある約1500本の桜は、ほとんどが「ソメイヨシノ」。寿命が約60年、100年と短いのが特徴です。他の桜と比べ「てんぐ巢病」という伝染病にかかりやすく、これにかかると花が咲かなくなっ



川根のソメイヨシノを守る会 会長
藁科 博さん(川根町家山)

い人たちが鯉のぼりや天王山の活動を頑張っているんだから、自分たち退職後の世代も頑張ろう」と、活動を始めました。初めは手入れの方法も全く知らなかったため、専門家を招き現場を見ながら勉強しまし

ています。会では桜を守るため、病気になった木や台風で折れた木を処分したり、新しく植えたりしています。昨年には、川根小・中学校の入学・卒業式に合わせて記念植樹も始めています」

【ふるさとへの恩返し】

「現在は、70歳代前後の12人で活動を行っています。枝の剪定など高所での作業もありますが、手の届く範囲を安全第一で取り組んでいます。活動の甲斐もあり、桜もだんだんきれいになってきていますよ。今後は人手が足りれば、梅など他の樹木にもチャレンジしたいと考えています。家山には梅園がありますが、こちらもボランティアの高齢化が進み、斜面での手入れが大変と聞きます。桜を守る会でも会員を増やしつつ、今後新しいことを、楽しんでいきたいですね。

また、他市のボランティア団体とも交流してみたいので、市外への視察を考えています。これからも、一緒に頑張ってきた仲間と共に、『ふるさとへの恩返し』につながるような活動を続けていきたいです」

藁科さんは、さまざまな活動を通して、家山の自然を仲間と共に守り続けます。温かな気持ちを受けて育った桜たちは、今年も多くの人を和ませてくれそうです。



家山の桜を懸命に手入れする「川根のソメイヨシノを守る会」の会員たち

Shimadajin File #146

Story 島田人

